



令和の学校行事に期待

西台中学校に着任して半年がたちました。あつという間の6ヶ月でしたが、子どもたちと過ごした毎日とはとても充実している思い出に残っています。大きな事故もなく、ここまで過ごせたのは、保護者、地域の皆様のおかげと感謝しております。ありがとうございました。引き続き、西中の子どもたちを暖かく見守ってください。

9月25日から、2泊3日で京都・奈良へ修学旅行に行ってきました。事故や大きな病気もなく、参加者全員が無事に戻ってくることができ、旅行中の子どもたちはとても充実しているように私の目には映っていました。特に2日目、班行動を終えて宿に戻ってきた子どもたちの様子が印象的で、疲れてへトへトのはずなのに、写真に写った子どもたちの表情は満面の笑み。宿の方々への挨拶もいつも通り、元気でした。宿での行動も予定通り。9年生の力がとても頼もしく思えました。

今回の修学旅行は、行き先も方法も今までの修学旅行と同じです。ただ一つ、今までの修学旅行と大きく異なったことがあります。それは、修学旅行のルールについて、いろいろな時間を使って子どもたちが主体となって4ヶ月以上前から考えたことです。この4ヶ月の経験は、ゼロから自分たちで考えることの難しさ、みんなに納得してもらうために相手の立場に立つことの大切さ、自分たちで決めたことだからルールを守ろうとする意識が高まったことなどが、子どもたちの事後アンケートから感じることができました。このように子どもたちが作り上げた行事だったから、3日間子どもたちは充実した表情をしていたのではないのでしょうか。そして、西中の先生方が、普段から子どもたちとの対話を大切に、認めてあげてきたから、子どもたちの表情が良かったのだと思っています。

学校で子どもと話をするとき、「認めて育てる」と最近によく言われています。では、認めておけば子ども達は育つのでしょうか。「認める」とは、具体的にはどのようにすればよいのでしょうか。

子どもにとっては「よいか悪いか、どちらかわからない」ことも多いものです。ここで悪い点だけを指摘されると「悪いこと」の割合が増えていだけで残りは常に「どちらかわからない」ことになり、自信をもって実行することができません。しかし「よい行いや上手にできたこと、よく努力したこと（結果にかかわらず）」をうまく伝えてあげれば、子どもは自信をもって正しいことを行えます。「よいこと」の領域にあることは積極的に行えますし、「どちらかわからないこと」を行うときは慎重になります。「駄目でしょ」と叱ってばかりで、どのようにしたらよいかを示さなければ、子どもは育ちません。「(どのようにしたらよいかは)自分で考えなさい。」は無責任です。

私たち大人が「こうした方がもっと良いよ」と的確に伝えることが、子どもの心に火をつけ、目標に向かって努力するための方法の一つかもしれません。そのためにも子どもと一緒に考えることがとても大切だと思っています。

今までの学校行事の多くは、学校主導でその内容やあり方を考え、子どもたちに提示してきました。その方がスムーズにできたから。しかし、これからの西中では、この修学旅行のように子どもたちとともに考え、学校のあり方を変えていきたいと思っています。令和の学校行事に期待してください。

生徒の活躍

※WEBページのため個人名は削除

第71回東京都中学校学年別水泳競技大会

3年女子50M自由型 第7位 28秒14 9年生女子

板橋区中学校秋季新人野球大会

第3位 野球部

板橋区中学校秋季剣道大会

第2位 8年生女子 第3位 男子Bチーム

第76回板橋区区民体育大会

バスケットボールの部 優勝 男子 第3位 女子

卓球の部 1部 第3位 男子Aチーム 2部 優勝 男子Cチーム

修学旅行の思い出

WEBページのため個人情報(写真)は削除